

■辻善之助 歴史学者。「大日本史料」「日本仏教史之研究」はじめ膨大な業績を上げ、初代史料編纂所長、国史学初の文化勲章。

つじぜんのすけ

西南戦争・・・1877＝ 兵庫県姫路元塩町に生まれる。

明治14年政変1881＝ 4歳：

幼少より聡明で、

帝国大学始・1886＝ 9歳：

帝国憲法発布1889＝12歳：

小学校・中学校は抜群の成績で異例の躍進をつづけ、

郡司千島探検1893＝16歳：京都第三高等中学校3年に編入、

日清戦争始・1894＝17歳：第一高等学校に転校、

日清戦争終・1895＝18歳：

白馬会・・・1896＝19歳：卒業し、**同郷の先輩三上参次の勧めで、帝国大学文科大学の国史科に入学。**

Bushidou・・・1899＝22歳：文科大学を卒業、恩賜の銀時計を授けられる。**卒業後直ちに大学院に入って、日本仏教史の研究に従い、**

坪内逍遙の国産化・1900＝23歳：文部省歴史材料取調べ囑託、

教科書疑獄・1902＝25歳：**史料編纂員を命ぜられ、三上参次の洋行不在中、江戸時代史料編纂部の留守をあくしたことから、以後、一貫して学問研究の本拠とした史料編纂所との関係が始まる。**

日露戦争始・1904＝27歳：***正規の卒業論文として「政治ノ方面ヨリ観察シタル日本仏教史-徳川時代ノ初期-」全3冊および「安国寺考」「安国寺志料」を呈出。**

日露戦争終・1905＝28歳：***史料編纂官に任じられ、その地位を不動のものとした。**

伊藤博文暗殺1909＝32歳：大学院定規の試験を経たものと認められ、文学博士の学位を授けられる。

大逆事件判決1911＝34歳：文科大学助教授を兼任。欧米各国に派遣され、万国東洋学会に出席して、

明治天皇没・1912＝35歳：帰国。

大正政変・・・1913＝36歳：文科大学で日本仏教史の講義を開始、

以後、史料編纂官として「大日本史料」の江戸時代第十二編編纂を主宰し、文科大学助教授として国史学科学士の教育指導にあたる生活がつづく。

ベルリン条約・1919＝42歳：**「日本仏教史之研究」を刊行。**

大暴落・・・1920＝43歳：**史料編纂掛事務主任を命ぜられ、史料編纂掛の統率者となると、同掛の拡張案を立案して各方面と折衝、**

原敬首相暗殺1921＝44歳：***「日本仏教史之研究」で帝国学士院恩賜賞を受け、**

水平社結成・1922＝45歳：古社寺保存会委員、

関東大震災・1923＝46歳：**東京帝国大学教授就任後、**

護憲三派圧勝1924＝47歳：**ついに議会の承認を見て、編纂官の定員が一举に12名に増え、「大日本史料」の第一編から第十二編まで各編一斉に編纂出版を開始した。事務主任としての最も偉大な功績となる。臨時御歴代史実考査委員会委員、同年東山御文庫取調掛囑託、**

日本時代始・1926＝49歳：**三上教授退官のあとをうけ、東京帝国大学教授兼史料編纂官に任じ、国史学第一講座を担当、黒板勝美教授と並んで国史学科を統率。「明治維新神仏分離史料」刊行開始、**

世界恐慌・・・1929＝52歳：国宝保存会委員。**全5巻完結。史料編纂掛が史料編纂所と改称され、その初代所長となる。**

満州事変・・・1931＝54歳：

五一五事件・1932＝55歳：**帝国学士院会員となり、同院が紀元二千六百年記念として企画した歴代震翰の集成出版事業の中心となり、「辰翰英華」を刊行。**

国際連盟脱退1933＝56歳：御講書始国書進講を行う。

日中戦争始・1937＝60歳：

健保+総動員 1938＝61歳：定年で東京帝国大学教授・史料編纂所長を退官したが、

大政翼賛会・1940＝63歳：

日米開戦・・・1941＝64歳：**史料編纂所には囑託として残り、**

年金+総武装 1944＝67歳：**主著「日本仏教史」刊行開始、**

敗戦・・・1945＝68歳：

新憲法公布・1946＝69歳：この年まで勤めた。

三大事件・・・1949＝72歳：

朝鮮戦争始・1950＝73歳：**人物史として現在なお高い評価を受けている「日本文化史」全7巻刊行。文化財専門審議会専門委員、同専門審議会会長など、各種委員として活躍し、**

独立回復・・・1951＝74歳：

メデー事件・1952＝75歳：**国史学界では最初の1人として文化勲章を授けられ、**

TV放送始・・・1953＝76歳：「日本文化史別録」4巻。

自衛隊発足・1954＝77歳：**朝日文化賞を受賞。**

55年体制始・1955＝78歳：***「日本仏教史」全10巻完結後、没した。**